

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立きのくに青雲高等学校通信制課程

学校長名：阿形 武芳

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の抱える様々な課題解決を支援し、生徒自身の自己肯定感や自己有用感を高め、地域社会に貢献でき、自らも幸福な生活を営むことができる力を育成する学校 生涯を通して自ら学ぼうとする態度や意欲、可能性にチャレンジしようとする心の豊かさ、自ら社会に対応できる力を身につけた生徒
------------------------	---

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を徹底し、学ぶ楽しさや「わかる・できる」を実感させるため、生徒の実態やニーズにあったスクーリング、レポート指導を行う。 自ら社会に参画しようとする意識を育て、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自己実現を図る力を養う。 基本的な生活習慣を確立するとともに他者との協調や協働を図りながら社会で生きていける力やスキルを育む。
--------	--

達 度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない
	D	不十分である (40%未満)

本年度の重点目標	1 基礎・基本の確かな定着を図り、学力の向上を目指す。
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 生徒の自主的・主体的な学習態度を育成し、社会につながる学習の充実を図る。
	3 SCやSSW、外部機関や保護者との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。

学校評価の結果と改善方策の公表の方法	本校ホームページに掲載
--------------------	-------------

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					令和3年度 評 価 (3月15日 現在)		
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策	
1	通信制課程では、働きながら学ぶ生徒が減少し、不登校経験のある生徒、転・編入の生徒、中学卒業後すぐまたは一定期間を経た生徒等が入学してきている。入学動機や学習歴、興味・関心、学校観、将来観等もさまざま、多様化が進んでいる。また、基礎学力が十分身につけていない生徒も増加している。	多様な生徒に対応できる教育の創造に取り組んでいるか。 分かりやすいスクーリングを目指し、学習内容の精選と充実に努め、学ぶ楽しさが実感できるようにできているか。 生徒とのコミュニケーションを深め、積極的な学習を促しているか。	個々の生徒の状況を把握し、柔軟できめ細かい指導を行う。 未登録生徒や学習進度の遅い生徒に対して学習を促す。 生徒の学習の進捗状況を把握し、適切な受講指導を行う。 生徒が積極的に学習に取り組めるようにスクーリングやレポートの工夫を行う。 通信制課程独自の学習を効果的に進めるためにICTの活用を含め、学習環境の向上を図る。	不登校からの回復状況 受講登録率 単位修得率 卒業生徒数 (在籍3～4年間で卒業する生徒数) 各教科において新学習指導要領の観点を取り入れた準備(レポート、スクーリング、テスト)完了率 スクーリング、個別指導によるタブレットパソコンの活用回数	B	<p>教員の日頃からの丁寧な指導により、様々な状況を抱える個々の生徒の実態把握に努め、それぞれに応じたきめ細かい指導を心がけている。</p> <p>卒業生徒は63名でほぼ例年と同数となった。受講登録率・単位修得率はそれぞれ63.9%・52.5%であった。(共に2.5P程度の増)</p> <p>新学習指導要領に向け、カリキュラム検討委員会にて観点別学習状況の評価方法について検討を行い、教務規程を改訂した。</p>	
2	年齢層も幅広く、さまざまな課題を抱える生徒が在籍している。 集団への参加や自己表現が得意な生徒が増加傾向にある。 全般的に、進路や学校生活、健康等に対する意識の希薄さがみられる。 自ら社会に対応できる生徒を育てていくために、生徒の意識を改善していく必要がある。	健康教育の推進ができているか。 学校行事やクラブ活動への積極的な参加を促しているか。 進路に関する情報提供を充実し、進路意識や勤労観を高め、将来への希望や夢を育てているか。 社会とつながる学習の推進を図れているか。	保健だよりによる啓発を推進する。 体育祭や文化祭等の学校行事や特別活動を充実させる。 早期から進路について考える機会を設ける。 進学希望者には情報提供の機会を増やす。就職希望者には就職指導員と連携し個々の生徒に応じた指導を行う。 スクーリングや各種の学校行事を通じ、基本的な生活習慣の確立を図ると同時に社会性を養い、生涯にわたって自ら学ぶ姿勢を醸成する。	健康診断の受診状況 学校行事への参加率 特別活動への参加率 進路だよりの発行、進路説明会の開催状況 生徒の進路希望の把握状況 就職指導員との連携 面接、履歴書指導の充実 企業訪問の実施回数 落ち着いて学校生活を送ることができているか。 クラブ登録者数 レポートのみ、スクーリングのみなど偏った学習を行う生徒の割合の改善率	B	<p>コロナ禍であったが、昨年を教訓にして健康診断の受診日を計画したため、歯科検診を除き、ほぼ例年どおり実施できた。</p> <p>昨年度より進路指導部を新設し、体制をより充実させたこと、今年度より就職指導員が常駐となったことにより、進路だよりの送付等、よりきめ細やかな情報提供が可能となった。校内での進路説明会に加え、延べ24件の企業訪問(昨年比9件増)を行うなど生徒の実情に応じた進路指導を行えた。</p> <p>多くの行事が中止となる中、行事参加者は延べ533名であった。</p>	
3	多様な生徒への指導、支援をより充実させていく必要がある。 通信制課程の特色について、中学校、高等学校、家庭、地域、県民等に広くアピールができていない。 転・編入生の占める割合が大きい、他の高校に対して、本校の学習システムについて十分に周知できていない。	個々の生徒に応じたきめ細かい指導の充実を図れているか。 家庭や地域、関係学校や機関との連携を密にし、本校についての情報を提供できているか。 さまざまな機会を利用して情報の発信を行っているか。	SC、SSWを活用し、外部機関と連携しつつ、教育相談やケース会議等を充実させ、課題を抱える生徒の学習を支援する。 中学校や他の高等学校に対して、必要な情報を提供する。 オープンスクール、保護者懇談月間、保護者と語る会等を実施する。 ホームページやマチコミメールによる広報活動を充実させる。 地区指導者等の活用を図る。 不登校児童のための全通・定通併修および通定併修の充実を図る。	教育相談、ケース会議の開催状況と生徒の回復状況 出身中学校、前籍校との連携 特別支援教育等の研修 中・高等学校訪問や事前説明会、校報等の発送 各行事の参加者数 ホームページ更新回数 マチコミメール配信回数 情報提供回数 地区指導者との情報交換 該当学校との連携	B	<p>SC、SSWと必要に応じてケース会議を行い、生徒の実態把握や支援の検討を進めた。また、毎月1回若者サポートステーションの協力で校内相談会を実施した。毎月の校報は生徒以外にも中・高等学校や関係機関に送付し、本校の教育活動を通知している。オープンスクールには中学生と保護者77名が参加した。保護者懇談月間に40名の参加があった。保護者と語る会は7名の出席であった。マチコミメールにより、45回にわたり次回スクーリング予定等の情報発信を行った。</p>	

学 校 関 係 者 評 価	
令和4年1月23日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>学校関係者(外部)へのアンケートは、地区指導者、同窓会役員、学校運営協議会の委員にお願いしている。同窓会役員の方々には、学校に関する情報は「校報」による報告のみになっており、学校の評価をして頂くのは難しいようである。評価としては、全体的に昨年と同様のアンケート結果であった。</p> <p>保護者へのアンケートについて、評価としては高評価が多かったが、中でも「本校の学校行事等で充実した体験活動などが行われていると思いますか。」や「本校では、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるため適切な指導が行われていると思いますか。」の項目は、20ポイント程度評価が上がっており、コロナ禍でありながら、学校行事の充実に取り組んだことや個々生徒への丁寧な生活指導を評価していただいた。</p> <p>一方、「本校は、生徒に対して分かりやすく充実したスクーリングを行っていると思いますか。」の評価で、C評価が少し増えている点は、今後改善していく必要があると考える。</p> <p>生徒へのアンケートでは、「本校での学校生活は充実していると思いますか。」「本校には、他の学校にない特色があると思いますか。」の評価は、高評価がかなり増えており、通信制の学習活動を良く理解して、充実した学校生活を送れていると感じている生徒が増えているものと思われる。</p> <p>一方で、「本校では、学校行事等を通して、役に立つ様々な生活体験ができていますか。」では、A・Bの高評価が減少し、C評価を付けた生徒が増えていた。</p> <p>保護者の方々には、学校行事について一定の評価をいただいたが、生徒は自分達にとって「役に立つ」内容の学校行事を求めており、今後行事を企画する際に気を付けておきたい視点となった。</p> <p>教職員へのアンケートでは、教科指導・教務の項目の「公開授業や研究授業等、指導方法の工夫・改善に向けた取り組みが学校全体で行われているか。」でC評価を付けた教職員が多かった。</p> <p>全日制や定時制高校と同様にはいかないが、新学習指導要領への移行期で、「思考・判断・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」を評価することを求められる中、学校全体や他教科と情報を共有したいと思われているようである。</p>	